

第8回熊本市歴史まちづくり協議会 議事録

【日 時】 令和5年(2023年)3月20日(月) 午後2時~午後3時半

【場 所】 熊本市役所 議会棟2階 予算決算委員会室

【出席者】 7名出席 ※以下、敬称略

委員 猪飼 隆明(会長)、田中 尚人、鄭 一止、小林 寛子、
上村 元三、宮本 茂史、吉村 圭四郎

【議題】

- 1 くまもと歴史まちづくり計画の進捗評価について(概要説明)
- 2 令和4年度の主な取組状況について(報告、意見聴取)
- 3 令和5年度の主な取組方針について(概要説明)

【概要】

事務局で説明後、意見聴取を行った。委員から出された意見は以下の通り。

(1) 事業全体について

- ・ハードが主である歴史的建造物や周辺環境の整備に係る事業だけでなく、地域の活動をベースに、ソフトが主である伝統文化を反映した活動の継承や、観光振興、情報発信に係る事業をより充実させ、ハード整備の事業に帰っていくような動きが必要だと思う。

(2) 町屋利活用プラットフォームについて

- ・主体的に動く方だけでなく、困ってる人を助けることも行政の仕事として重要であり、丁寧なアフターフォローが、歴史と文化を生かしたまちづくりの観点から求められる。
- ・一元的な相談支援体制として、銀行が入ってきたことは非常に心強いことだが、更に不動産系の専門家がいるだけで、信頼関係の構築や契約に関する助言などが受けられ、マッチングの進み具合が変わっていくと思う。
- ・民間だけでやるべきという状況ではなく、行政が御用聞きになり一緒に取り組むと相互理解が生まれる。
- ・クラウドファンディングなどの資金集めの手法を自ら率先して行う事業者が熊本にはたくさんいるため、積極的に連携すべきだ。

(3) 町屋のマッチングについて

- ・不動産のマッチングになるので、その時のタイミングや双方の思いにもよるが、時間をかけて1件1件実績を積み上げていくしかない。
- ・町屋の所有者の世代交代や住まなくなったタイミングで、壊すか活用するのかとい

う選択肢が出てくる。常に門戸を開いて構えていないと情報が入って来ず、待ちの状況になってしまうことが、マッチングが進まない要因の一つである。

- ・今残ってる町屋を一つでも多く残すため、民間が入りやすくなるよう、行政の皆さんにも頑張ってもらって欲しい。
- ・まちづくりスクールのような、空き町屋等に対して、事業者から所有者に対して、町屋の使い方を提案させてもらう場を企画することも、最終的なマッチングにつながる。

(4) 町並みづくり助成金について

- ・助成金について、広く制度を認知してもらうため、行政にて粘り強く周知の徹底を行っていただけたらと思う。

(5) 唐人町通り道路美装化、空地等活用支援について

- ・新町・古町地区ならではの、統一感のあるライトアップやデザインを考えていくと、更に魅力アップにつながると思う。例えば、花畑広場にあるような、ベンチにライトアップをつけることもいいと思う。

(6) 文化団体への助成について

- ・新町獅子保存会の舞手の高齢化などソフト面が問題になってきている。これからは、若い人たちの勧誘や、伝統文化を守るために、昔のものを保存するだけでなく、一部リニューアルしながら、よりPRし魅力を伝えていきたい。
- ・伝統文化団体の横のつながりが重要であり、様々なことが共有しながら、コロナが終息に向かってきたというこのタイミングで、何か考えていきたい。

(7) 観光周遊について

- ・これまで守ってきたものを活用し継承していくパワーは、そこに住んでる人の思いに加えてお金が動く必要があり、観光の力が必要になってくると思う。
- ・地元のまち歩きガイドとの連携も必要で、ガイドにある程度のお金が払われ、観光客が質の高いツアーを体験できれば、商品としてもっとPRされる。加えて、町屋を保存するためのツアーといった、そのツアーの目的まで情報発信をすべきで、観光客が払うお金が、その目的のために活用されることが、メッセージとして届く必要があると思う。
- ・建造物の活用の際に、観光客にお金をどうやって落とさせるかという仕掛けが、それぞれの地域で必要になってくる。新町・古町・川尻地区も非常に魅力的な地域なので、観光客にどう見せるのか、まちづくりをどうしていくのかを一緒に考えていく必要がある。
- ・住む人と訪れる人たちが、交流や会話ができる場が必要で、建造物が出来てアウトプットをどうするのかを考える時に、その辺の視点がとても必要だと思う。

(8) 情報発信について

- ・市の情報発信ツールについて、誘客に繋がるような動画や SNS など、多くの取組みをしているので、全ての情報をまとめた一覧表やチラシのようなものがあると、一層効果があると思う。
- ・どうやって使ってもらえるのか、誰に使ってもらえるのか、どこで情報発信したら一番効果的に地域に人を呼び込むことができるのか、その辺の策がもう少し必要だと感じた。
- ・駅や熊本空港に情報を置き、観光客の行動変容につながるような仕掛けが必要だと思う。

(9) その他

- ・マンション住民のまちに対する愛着についてはフラットだと思うので、取り残さないようにしてほしい。
- ・大事なことはファンをつくっていくこと。個人的には高校生や中学生が大事だと思っているが、将来的にまちづくりを新しい働き方の一つとして考えてもらうこと必要がある。
- ・住民参加型の企画をどれだけやれるかということが重要だ。自身の生まれ育った地域のことを何も知らずに他の地域へ出て行ってしまふことが多いので、子どもたちにも、自分の住む地域の魅力を肌で感じるような機会づくりが必要である。